

## 「伝統」という世界から解き放ち 新しい素材として、和紙を現代に、未来に

麻や楮を植え、布を織り紙を漉き、かつて麻植と呼ばれた地で、  
今に受け継いできた1300年の阿波和紙の伝統。  
ただ守ること、継承することだけでなく、  
時代の求めに呼応しながら、技法や用途の多様化に取り組み、  
和紙の可能性を広げていく。新しい素材の作り手として。



## 抄紙中の紙の厚さムラ(変動)の改善のための 原料濃度の安定化装置の設置事業

### 1. 取り組みの経緯

和紙の用途や販路が多様化する中で、価格よりも品質重視の取り引きが増えており、従来和紙業界では問題とならなかった品質項目がクレーム化してきていた。例えば、繊維から出るゴミや繊維の長短、色目の変化などの天然物由来の現象や、ロットによる厚薄、インクのしみ具合、紙の水分率に起因するカールなど、納品後の次の工程に影響を及ぼす項目について、解決が求められていた。

### 2. 実施内容

原料貯留槽内の水位が一定量以下に低下すると攪拌による回流が停滞し、濃度が均一にならず、抄紙機での紙の厚薄が発生していた。また、原料貯留槽内部がタイルであったため、目地に残った汚れや欠落によるゴミが不良の原因となっていた。これらを解消するため、攪拌装置を取り替え、希釈用の白水(再利用水)供給に専用ポンプを設置。槽のライニングをタイルからステンレスに替えた。

### 3. 取り組みの成果

攪拌装置の羽根の増設と角度の改善により回流を平均化し、個人の技量に拠っていた希釈用の白水供給も定量化できたため、厚さムラが解消。産業用として求められる再現性と均一性を実現できた。貯留槽内部のステンレス化によりゴミの発生を抑え、需要の大きいアート用紙の品質向上が図れた。また、都度の洗浄に要する労力と時間が大幅に削減でき、作業者の負担軽減と効率化につながった。

#### 事業者から一言 時代とともに新しい表現を

大量に使う時代は終わり、和紙そのものの需要は減っていますが、ネットでの直販や世界60カ国との取引などに新たな販路を広げています。今後はアーティストとのつながりを生かしたギャラリー機能など、地域に資する展開を図りつつ、常に新しさを求め、和紙で時代の息吹を表現し続けたいです。



工場長  
中島 茂之氏



▲抄いた紙を連続的に絞り乾かし巻き取っていく、抄紙機



▲原料貯留槽の攪拌装置を取り替え、内部をステンレスに



▲繊維が長く表情豊かな分、和紙はムラになりやすい

#### 富士製紙企業組合

〒779-3401  
徳島県吉野川市山川町字川東136  
Tel.0883-42-2035 Fax.0883-42-6085  
●代表理事 藤森洋一  
●設立年月日 昭和27年1月23日  
●資本金 3,900万円  
●業種 パルプ・紙・紙加工製品製造業  
●従業員数 43名  
●ホームページ <http://www.awagami.or.jp>